

ネギベと病防除支援情報システム

県内における過去の発病と気温、日照量、降水量データの相関関係を解析し、感染の危険性を予測できる情報システムを開発

研究開発の背景

- ・平成21年12月～22年1月上旬に千葉県九十九里沿岸でべと病が多発し、大きな被害があり、早急な防除対策が要望課題として提起。
- ・ネギべと病の防除は、感染初期をとらえた予防的な薬剤防除が効果的。一方、ネギべと病は発病初期の診断は難しい。
- ・このため、感染初期を的確に把握できる情報システムの確立と同システムを利用した防除対策が被害軽減に有効。

研究成果の内容

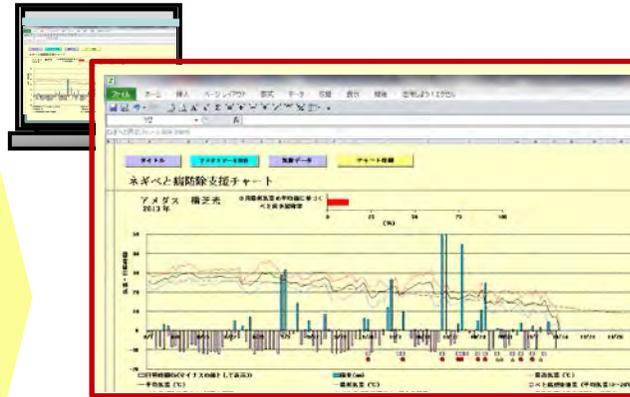
県内気温データと発生の有無の相関分析

タマネギべと病発生条件に関する先行研究の精査

県内気温、日照時間、降雨量と発生の有無の解析による感染好適条件推定

予測アルゴリズム作成

ネギベと病防除支援情報システム



発生予測、防除タイミング情報をチャート化表示

現地PCでの利用を想定

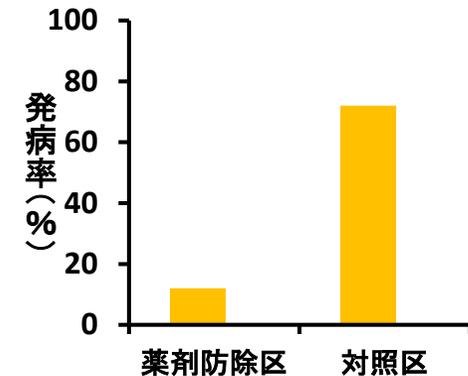
導入メリット

ネギベと病の防除指導

防除要否判断(発生予測・初期診断・栽培品種)

+

適期防除(防除タイミング情報)



システムを利用した薬剤防除効果の一例

注) 薬剤防除区: システムの防除タイミング情報に基づき薬剤散布

※本システムは、県農林水産部担い手支援課に利用申請書を提出することで入手可能(準備中)。

期待される効果

- ・感染初期を的確にとらえた防除対策が可能。

導入をオススメする対象

県内全域のネギ生産者、JA営農指導員、普及指導員